

水道用水供給事業における水需要予測の点検

令和 7 年度に実施した水需要予測について、令和 7 年度の 1 日最大給水量及び 1 日平均給水量、令和 6 年度の各要素の実績が明らかになったことから、水需要予測の点検を行った。

1 令和 7 年度の水需要の点検

- 1 日最大給水量の実績値は、令和 6 年度から 3.2 万 $\text{m}^3/\text{日}$ (2.2%) 増加し、約 150 万 $\text{m}^3/\text{日}$ となり、予測の範囲（図 1 の網掛け部分）※¹ を上回った。
- 1 日平均給水量の実績値は、令和 6 年度から 1.2 万 $\text{m}^3/\text{日}$ (0.9%) 増加し、約 140 万 $\text{m}^3/\text{日}$ となり、予測の範囲（図 1 の網掛け部分）を上回った。

※¹ 令和 5 年度実績値と令和 10 年度及び令和 15 年度における予測値（上位及び下位）を直線補間した範囲

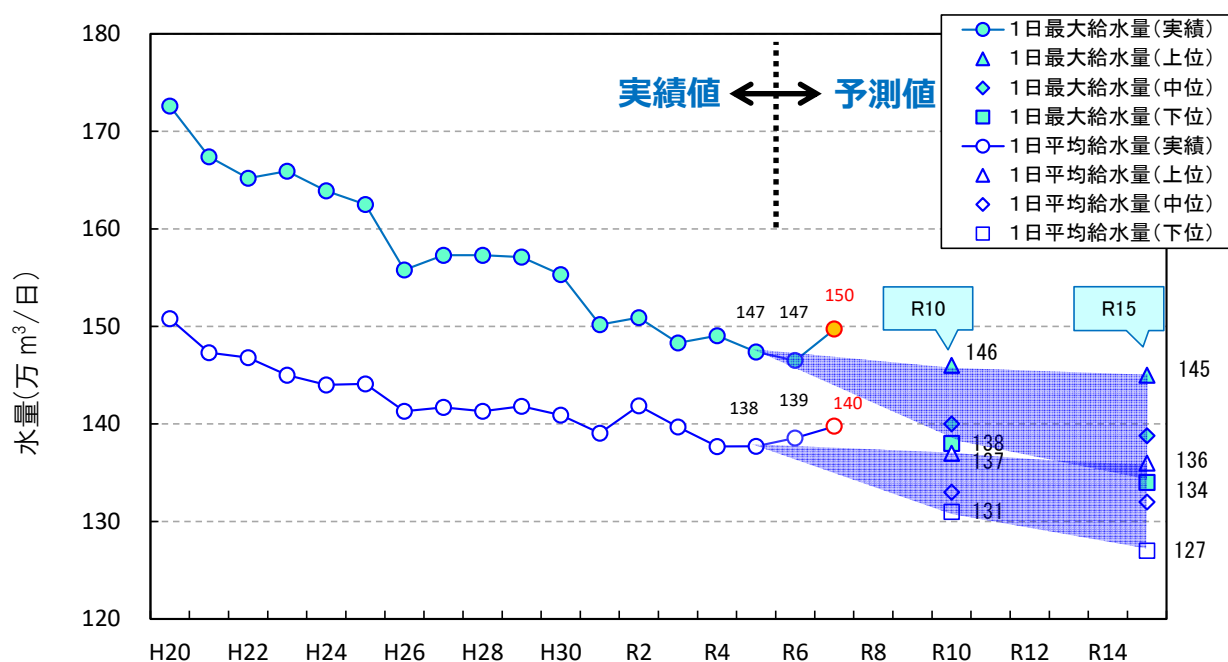


図 1：企業団の 1 日最大給水量及び 1 日平均給水量の実績値と予測値

【想定ケースについて】

上位：給水人口の減少①	負荷率は過去 5 年平均（横ばい）	市町等の自己水から企業団水への転換②
中位：給水人口の減少②	負荷率は過去 10 年時系列傾向分析（増加）	市町等の自己水から企業団水への転換③
下位：給水人口の減少③	負荷率は過去 10 年時系列傾向分析（増加）	市町等の自己水から企業団水への転換④

2 各要素の点検と考察

表 1：各要素の実績値と予測値

	R6		R7		R6-R7 実績値 増減率
	(予測値) ^{※2} 実績値	乖離率	(予測値) ^{※2} 実績値	乖離率	
1 日最大給水量 (万 m ³ /日)	(145.9) 146.5 (1 月 22 日)	0.4 %	(144.5) 149.7 (11 月 12 日)	3.6 %	2.2 %
1 日平均給水量 (万 m ³ /日)	(136.7) 138.6	1.4 %	(135.6) 139.8	3.1 %	0.9 %
予 測 に 用 い た 要 素	給水人口 (万人)	(595.5) 595.5	(592.3) — ^{※3}	—	—
	生活用原単位 (L/人×日)	(241.4) 242.6	(241.1) — ^{※3}	—	—
	業務営業用水等 (万 m ³ /日)	(24.9) 25.2	(24.8) — ^{※3}	—	—
	有収率 (%)	(94.7) 94.5	(94.7) — ^{※3}	—	—
	負荷率 (%)	(92.2) 91.9	(92.3) — ^{※3}	—	—
	市町等の自己水 (万 m ³ /日)	(44.9) 43.0	(46.4) — ^{※3}	—	—
	企業団負荷率 (%)	(94.0) 94.6	(94.1) 93.3	▲0.9 %	▲1.4 %

※2 予測値は中位値

※3 令和 7 年度の実績値は、現時点で未公表（大阪府健康医療部）

[1 日最大給水量]

- 令和 6 年度の実績は、1 月 22 日に 146.5 万 m³/日を記録し、予測値を 0.6 万 m³/日（0.4%）上回り、おおむね予測どおりとなった。
- 令和 7 年度の実績は、11 月 12 日に 149.7 万 m³/日を記録し、予測値を 5.2 万 m³/日（3.6%）上回り、予測の範囲を上回った。
- 予測の範囲を上回った要因は、市町等の浄水場の点検、漏水に伴う運用変更による自己水の減少によるもの。

[1 日平均給水量]

- 令和 6 年度の実績は、生活用原単位及び業務営業用水等が予測値を上回り、市町等の自己水が予測値を下回ったため、予測値を 1.9 万 m³/日（1.4%）上回り、予測の範囲を上回った。
- 令和 7 年度の実績は、予測値を 4.2 万 m³/日（3.1%）上回り、予測の範囲を上回った。
- 予測の範囲を上回った要因の一つとしては、滝畑ダムの渇水による市町等の自己水の減少が考えられる。

3 今後の対応

- 令和 7 年度の実績は、予測の範囲を上回った。その要因としては渇水等の一時的なものも含まれるが、予測に用いた各要素の動向について、引き続き注視していく。

工業用水道事業における水需要予測の点検

令和7年度に実施した水需要予測について、令和7年度の基本使用水量、1日最大配水量及び1日平均配水量の実績が明らかになったことから、水需要予測の点検を行った。

1 令和7年度の水需要の点検

- 基本使用水量の実績値は、令和6年度と変わらず、38.2 万 m³/日となった。
- 1日最大配水量の実績値は、令和6年度から 1.0 万 m³/日（4.0%）減少し、約 26 万 m³/日となり、予測の範囲（図1の網掛け部分）※1を下回った。
- 1日平均配水量の実績値は、令和6年度と変わらず、約 22 万 m³/日となった。

※1 令和5年度実績値と令和10年度及び令和15年度における予測値（上位及び下位）を直線補間した範囲

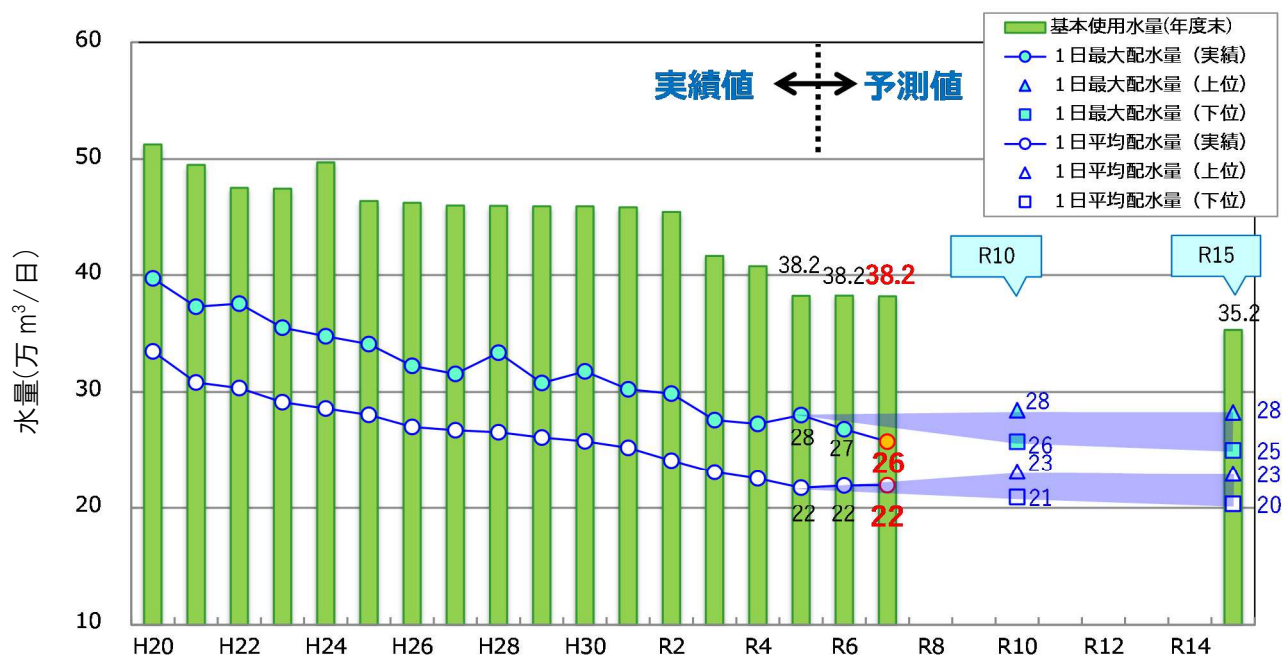


図1：基本使用水量、1日最大配水量及び1日平均配水量の予測値と実績値

【想定ケースについて】

上位：業種別の実使用水量※2⊕

下位：業種別の実使用水量※2⊖

※2 以下の2種類の推計を行い、業種ごとに値が大きい推計を「上位」、値が小さい推計を「下位」とした。

推計①：1日平均配水量（業種別）の過去10年間の時系列傾向分析を基にした推計

推計②：大口受水事業所の使用実態にアンケート結果を反映した推計

2 令和7年度の水需要の考察

[基本使用水量]

- 令和7年度の基本使用水量の変動は以下のとおり。

新規・増量受水事業所 7 社 計 +8,620 m³/日

廃止・減量受水事業所 12 社 計 -9,310 m³/日 合計 -690m³/日 (-0.18%)

[1日最大配水量]

- 令和7年度の実績は、9月4日に 25.8 万 m³/日を記録し、予測値^{※3}を 1.4 万 m³/日 (5.0%) 下回った。

※3 令和5年度実績値と令和10年度における予測値(下位)を直線補間した値

[1日平均配水量]

- 令和7年度の業種別の予測値と実使用水量の実績値を比較すると、おおむね予測どおりとなった。
(表1)

表1：業種別の予測値と実使用水量（1日平均配水量の実績値）(万 m³/日)

業 種	R7下位予測値	R7実使用水量	予測値との差
化学工業	7.5	7.8	0.3
鉄鋼業	2.9	3.0	0.1
石油・石炭製造業	3.9	4.2	0.3
その他	6.9	6.9	0.0
合 計	21.3	21.9	0.6

四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

3 今後の対応

- 1日最大配水量については実績値が予測を下回ったが、1日平均配水量については実績値が予測の範囲内であった。工業用水道の1日最大配水量は、大口受水事業所の需要変動による影響を大きく受けるため、今後も需要の動向に注視していく。